

(1) 国語教育研究会 (小)

会 長 宮崎 由紀子 (中村小)
副会長 段松 淑子 (西土佐小)
事務局 木下 久美 (東中筋小)

1. 研究主題

「言葉を大切にし、豊かな読みと表現の力を育てる」
～主体的・対話的で深い学びを通して～

2. 研究経過

実施年月日	研究のあらまし	会場	備考
令和元年 5月8日(火)	四万十市教育研究会 組織総会 内容：役員選出、研究主題設定、年間計画	中村南小学校	32名参加
8月1日(水)	第1回研修会(夏季研修会) 内容 ○講話及び演習 「新学習指導要領で求められている国語科授業について」 ○各校の実践交流 講師：宗崎 幸枝 指導主事(西部教育事務所)	中村小学校	27名参加
10月24日(木)	第2回研修会 内容：研究大会に向けての教材研究・指導案検討	中村小学校	11名参加
11月13日(水)	四万十市教育研究大会 内容：公開授業(5年1組) 研究協議 単元名 本を読んですいせんしよう 教材名 「ヒロシマのうた」(東京書籍) 授業者 白石 光教諭(西土佐小)	西土佐小学校	30名参加

3. 取り組みの概要

(1) 第1回研修会

西部教育事務所から宗崎幸枝指導主事を招聘し、新学習指導要領の改訂に沿った先進校の取り組みをビデオ視聴を交えながら紹介していただいた。その授業の中での児童の姿、先生の手立てから気が付いたことを話し合う演習を通して、児童が主体的、対話的に学習活動に取り組む授業づくりを学び、日々の授業研究に生かせるものとなった。また、板書写真をもとにした実践交流では、各校の実践から良さを学び、指導主事の助言もいただきながら国語科授業づくりの大事なポイントを全体で共有することができた。



(2) 第2回研修会

研究大会に向けて、学習指導案の検討を行った。指導案の中の単元末に期待する児童の姿としてどういう姿が見られれば深く味わっていると言えるかや、単元計画の流れはどうか、印象に残った文章の交流の仕方について等、授業者の悩みを中心に協議を行った。参加者からは、並行読書や全文シートへの掲示の仕方、文章の交流の仕方等様々な意見を出し合い話し合うことができた。

(3) 研究大会

授業後全体で「ねらいの達成」「主体的・対話的で深い学び」「全文シートの活用」の3つの視点に沿って研究協議を行った。グループ協議にしたことで、主体的な話し合いができ、その後の全体交流では、3つの視点について全体共有し深めることができた。また、新学習指導要領の指導事項と合わせて授業を振り返ることで、単元のねらいに迫る授業であったかという視点をより明確にすることができた。

4. 令和元年度四万十市教育研究大会

研究協議の内容

(1) 授業者より

- ・児童は自分の意見は言うけど、それ以上深まりが見えなかった。
⇒なぜつながっているといえるのか、を途中で一度共有した。
⇒友達の意見に納得できた子ども、できなかった子どもがいた。
- ・今日を迎えるまでの悩み
⇒自力で物語を読み解いていく段階で、児童ごとに差があった。
⇒全文シート：誰が、どこで、どんなことを考えたかを一目で見られる利点がある。
- ・本時の中で児童が自分の考えを深め、広げられたのか見取りが難しかった。

(2) 参観者より 良かった点 (○) 改善点 (●)

- ・主体的に学びに向かう子どもの姿があったか
 - 自分の意見を言い合っており、主体的な人にひっぱられて周りの子どもも考えを深めていった。
 - 家庭学習と授業のサイクル化ができており、西土佐小の授業スタンダードの取り組みが伝わってきた。
 - 単元ゴールを目指して見通しが持っていた。
 - しっかりと友達の意見を聞き、反応も良かった。その都度自分の考えを持っていた。
 - 交流をしたい活動があって分かりやすかったが、目的意識が薄いのではないか。
⇒誰目線〜というところが多くの子どもに落ちていなかった。
 - 汎用的なふりかえりが出ている
⇒内容についてのふりかえりの方が良いのではないか。(深まりが出たのでは?)
 - 最後に先生がひとつ焦点化した部分について考え合うのもよかったのではないか。
 - 印象に残ったグループ ⇒人数のばらつき、根拠を伝えただけで、深めることができていなかったのではないか。
⇒少人数にする、小グループでステップを踏む必要があった。
 - 評価の仕方
⇒ワークシート、流れの視点を示す必要があるのでは。
- ・身に着けたい力にふさわしい言語活動であったか
 - 交流、全体共有の時間をとって、どう深まっているかを見せる
 - 交流の時、言葉にこだわる。(この言葉から、こういう風に意見が変わりました)
 - それぞれの児童の感じ方を認め合っている。
 - 評価をところどころ入れることで、もっと活発に話し合えたのではないか。
 - 推薦文の中で、なぜ勧めたいのかを深く読む事で目的をもう少し話すべきだったのでは。
 - どういうこと?と、切り返しをして具体的に理由を言うようにすることで、学びが深まったのではないか。

- ・全文シートの活用の仕方

- 全体像やつながりがとらえやすい為、全体で共有できて、より深い読みが可能に。
- 人の意見を聞いて書き込みを行っていることがよかった。

課題：深い読みとなるための全体での共有の方法について

- ・自分の考えを深めること。
 - ⇒主題に迫るところに限定してまとめる必要があったのではないか。
 - ⇒筆者の書いた思い、主題に迫るところで考えるべきではないのか。
- ・交流をする時に、ふりかえりが出ていた、自分の考えが変わった、というのが早く出なければいけない。
- ・教材文を読んだ後、読み方を学習したスキルを使って次回から自分の本で推薦文を書く活動に入る。
 - ⇒物語は、視点を変えることで読みが変わることで楽しくなると思う。
 - ⇒読み方の視点を変えてみるなど、視点を変えた時に見つけられるおもしろさもある。

(3) 助言者より

研究テーマである「言葉を大切にし、豊かな読みと表現力を育てる」が国語の授業づくりの大前提。全ての児童に今日の準備をさせ、授業ができたことが素晴らしい。白石先生の「さらに良くしたい」という思いが伝わってきた。

課題について

- ・一人ひとりの読みの精査、解釈を大切にしないと、共有しているつもり、交流しているつもりでも子どもは分かったのだろうか、という疑問が残る。
 - ⇒自分の言葉に言い換えてこそ自分の力になる。
- ・全文シートに書き込みながら読む利点は、自分で書いたから人と話したくなるという思いを持つこと。⇒自分なりの読みがある。どこからそう思う？根拠を示すことができる。
- ・子どもは自分の選んだ一文にこだわりを持っていたか。
 - ⇒今日の一文のところ、この教材の主題に迫るようなところ、核心に迫るところを選ぶ必要があったのでは。
- ・「〇〇さんが言ったことで納得した」でなぜ納得したのかを追求する。「納得した」「読む目線が変わった」は深めるポイントとなる。その後交流の時間を確保する。
- ・「交流で使いたい言葉」が増えるような交流をしてほしい。

5. 成果と課題

(1) 成果

- ・夏季研修会では、宗崎指導主事に、学習指導要領を使って研究テーマに関わる学習活動を、分かりやすく解説していただき理解が深まった。また、先進校の授業風景をビデオ視聴することにより先進校の取り組みや主体的、対話的な学習活動の展開や子どもの姿を通して理解を深める研修となった。
- ・研究大会では、授業を参観させていただくことで会場校の取り組みや実践を学び自校の取り組みにつなげることができた。
- ・グループ協議や全体共有で、先生方の実践や考え方を知るとともに、自己の授業に生かすことができた。

(2) 課題

- ・研究大会の授業の学習指導案検討会の持ち方が難しく授業者、会場校が大変だったのではないか。(授業者が遠方の為) 来年度はデータで指導案を送る等、授業者の負担を減らす工夫が必要では。